

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二二（七）七二〇七

旗開き報告②
中野委員長の
基調講演(要旨)

われわれ国鉄労働者をめぐる情勢は大変な時期にきている。今、国鉄の職場で何が起きているのか、動労のいる職場では労働組合が機関で決定し、一時帰休、出向のオルグが行われている。組合員が当局になりかわり、お互いに他人の免許や資格、能力を調べている。こういう許しがたい事態が職場の中で横行している。

（基調講演に立つ中野委員長）

「再建」論議の末路は、大量首切り・労働強化・組合破壊だ

この年明け、国鉄当局は、独自の再建策を出した。六二年までに民営化に移すが当面分割はしない。六五年までに職員数を十八万六千人にする。六二年までに二五兆円に達する長期債務については、九兆円は国鉄が負担、十五兆円は国で出せ、という内容である。これは国鉄再建監理委員会の案と基本的に同じである。再建監理委は「民営・分割」案であるが、国鉄案も全国一五〇あまりのローカル線を全部国鉄から切りはなすと言っている。国鉄案はタテに、再建監理委員会はヨコに分割と言っている。国鉄労働者に対しては六五年までに十数万人の労働者を合理化する点では両方とも一致している。長期債務問題もタナ上げで一致しており、結局、国鉄労働者、国民に全ての犠牲を転嫁しようというのが彼らの狙いだ。しかし、最大の問題である長期債務について百二十兆円をこえる借金をもつ国に肩代りさせるなど不可能なことを主張したり、新たな赤字を生み出す新幹線整備計画を押し進めるなどを見れば、明らかかなように、彼らの真の狙いは、今日の国鉄の事態をどう解決するか、まじめに考えるのではなく、国鉄労働運動を本質的にたたきつぶし、国鉄労働者の首を切り合理化する一点にある。

後屈服の道=「再建」論議をぶっ飛ばし「60・3」粉碎実力反撃へ

「本部」革マルを一掃せよ！
当局の「首切り請負人」
問題なのは、こうした状況の中で各組合もそれぞれ再建策を出しこの論議に埋没していることだ。

当局の攻撃と対決するのではなく、それを一担置いて、労働者も再建問題に当てるなどは本末転倒もはなはだしい。その結果が、動労「本部」のように労働者が骨身を削れば国鉄を再建できるかのような話になる。われわれは、こうした動きを徹底弾劾し、怒りをこめて反撃に決起しなければならぬ。

労働者の実力反撃で、中曾根の「総決算」攻撃をうちくごう

一九八五年は、帝国主義強盗戦争が終つてから満四〇年を迎える。この四〇年戦争のない年はなかった。そして今日、核戦争の危機が着々と進行している。まさに帝国主義の支配が、その矛盾が、今や戦争という手段を通してしか解決できないギリギリの所までできている。世界で一番

「60・3」粉碎を突破口に、国鉄―三里塚での一大実力反撃へ！

この中曾根の攻撃のもう一つの柱が、三里塚である。二〇年間にわたる時の権力と不屈・非妥協に闘いぬき、全国の住民運動のメッカとして存在しているがゆえに、八五年二期強行を含め決戦を迎えている。われわれが、中曾根の反動と対決して生きる道は、国鉄と三里塚をめぐる攻防に勝利することである。まさにこの一年は決戦である。

その焦点はまず「60・3」である。「60・3」大合理化は十万人首切りとすさまじい労働強化をもたらす許しがたい攻撃である。いかに全体が「60・3」問題を後景化させ、あるいは動労のようにこれを推進しようが、動労千葉はこの「60・3」に実力闘争を含む闘いを配置し、怒りの総決起を実現しなければならぬ。公われわれはあらゆる手段を使う。公

強いと言われたアメリカが今年にも借金国になろうとしている。このアメリカの景気にささえられ貿易黒字だと言っていた日本も又、危機的状況へ入ろうとしている。

この中で中曾根は「戦後政治の総決算」と称して軍事大国化・改憲の道をつき進んでいる。その重要な環が行政改革であり、教育改革である。そして、その行革の目玉として国鉄がターゲットとなっている。日本労働運動は、中曾根の反動攻撃の前に総屈服し、全労協の発足、官公労をもまきこもうとする動きの中で、産業報国会化への道へと突き進んでいる。これをかろうじてささえているのが国鉄労働運動である。これをつぶさなければ中曾根の「戦後政治の総決算」ができないのである。

労委も活用する。しかし、基本は職場生産点の団結と実力行使だ。小手先のビホウ策でこれをのりきることはいかぬ。三・一四ダイ改闘争を全力で闘いぬき、そして三・二四に予定されている三里塚現地集會に二度、三度、五割動員をかちとる。この力が「分割・民営化」、十万人首切り計画粉碎の闘いにつながる。

現在、イギリス炭鉱労働者は、死者をも出しながら十数ヶ月に及ぶストライキを闘いぬいている。われわれはこうした闘いを教訓にしながら、全国の国鉄労働者の怒りの最先頭で、文字通り、心機一転ふんどしをしめなおして立ち上がらなければならぬ。このことを皆さんに訴えて、一九八五年旗開きに際してのあいさつにかえたいと思います。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

